場合にはなかなかこういう訳にはいかない。上に述べたＯＨＰの利用方法は，目新しいものでもなんでもないが，しかし，順序を追って英文を覚えさせる方法としては，きわめて有効適切である。なお，上の例文は，「授業の中の５分間英会話」（福島県教育センター，英語科講座用資料）から引用した。同資料の中には，上述のような４行程度のきわめて短い英語でのやりとりが，105型のせられている。

(2) わからせる，興味をもたせるためのＯＨＰの利用

TP 2

← more than 150 → 1960	
Rio de Janeiro ――――→	Brasilia →

The capital of Brazil is Brasilia.
The capital of Brazil has been Brasilia since 1960.
The capital of Brazil was Rio de Janeiro.
The capital of Brazil had been Rio de Janeiro for more than 150 years until 1959.
had ＋ 過去分詞……過去完了

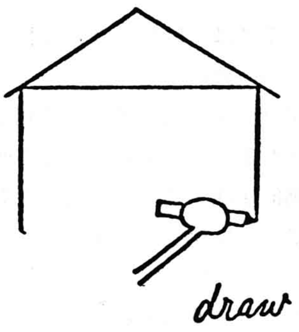
TP 2は過去完了の導入に用いられた例である。使用教科書は，NEW HORIZON で，対象学年は第３学年である。作成者の福島農蚕高校，五十嵐賢治先生の説明によれば，

ア．Oral Introduction の段階で，Brazilの首都が，Rio de janeiro から Brasilia に移った事実を，TP 2の表を用いて知らせる。
イ．その表を用いて，現在，現在完了，過去の関連から過去完了を導入する。
ウ．つぎのＴＰでは，過去完了の例文の練習，さらにそのつぎの過去完了の受身の文へと進む。

とある。日本人にとって，英文の時制は，前置詞および，単数・複数の使い分けと並んで，３大難関である。そこで，時制を理解させる一番手っとり早い方法は，時の流れにしたがって図を書いて示すことである。TP 2においては，一番上に左側を過去，右側を現在から未来へということにして簡単な図で示し，その中にRio de JaneiroからBrasilia へと首都が移っていたことがあらわされている。その図をみせながら，現在 →現在完了 →過去と進み，最後に過去完了を導入する訳である。首都が Rio de Janeiro からBrasilia に移ったことに目をつけたので，この教材提示は，過去完了時制の説明という点では，まことにもって，適切なものとなった。なお，アンダーラインを引いた部分は，赤ペンで文字を書いてもよい。

つぎに，ことばをイメージとして定着させる場合にも，ＯＨＰが利用できる。例としてdrawとpaint をあげたい。英語の授業で生徒にdrawとpaint の違いをたずねた時，「書く」「描く」「画く」などという訳語がだされた。そこでさらに，「描く」と「画く」はどう違うのだろうかなどという疑問がでてきて，ますますわからなくなったことがある。英語を日本語で置きかえようとすると，時としてそういうことになることがある。TP 3，TP 4のように，ＯＨＰを使って示すと，いっさいのむずかしい議論ぬきで直接理解ということになる。英語のことばが，訳語としてではなく，イメージとして心に定着していくからである。英語の授業では，どうしてもことばだけに頼って，訳してみたり，読んだり，説明したりということになりがちである。しかし教師としては，なるべく多くの視聴覚教具，教材を利用することによって，生徒の multi-senses に働きかけたい。

TP 3



TP 3，TP 4はその線にそって，絵をＯＨＰを通して利用した